神戸大学医学部附属病院

病理診断科

指導担当医（役職）

兵頭俊紀（特命助教）

実習概要

実習コース

① ２週間コース

② 4週間コース

概要

「病理診断の過程を学ぶ」「担当教員の専門領域について発展的な学習をする」ことを目標にします。病理診断科は他科と異なり、担当患者さんを診察する、という実習ではありません。臓器横断的に行われる病理診断について、より実際的に学ぶ機会を提供したいと思います。

今年より②4週間コースを追加し、病理志望者やより実践的実習したいという学生も受け入れます。

実習スケジュール

① ２週間コース

1．期間中、1人1症例について病理組織診断書作成までを行う。ワード形式で診断書を作成し、それをレポートとする。

2．曜日ごとに日替わりで教員が実習を担当する

3．月火水の11時（金曜日は10時）から行われる部内カンファレンス（診断困難、教育例を共有する場）への参加は必須。

4．実習時間は基本的に10時から12時。他科とのカンファレンスの多くはその時間外に設定されている。それらに参加希望の場合は適宜案内するので、希望を自身で伝えてください。

5．病理解剖が入った際にはその見学も行う

6．希望があれば技師指導の下、薄切実習を行う（2週間のうち1回）

7．希望があれば症例の切り出しを行う

8．自分が希望する臓器・領域を重点的に学ぶことも可能（＊ただし、神経変性疾患、骨髄スメア像、小児疾患については症例が十分でなく、対応が難しい）

② 4週間コース

上記2週コースの内容に加えて、スケジュールに余裕があるため、実際に自身が切り出した症例の診断レポートを作成してそれをレポートとして提出してもらいます。レポートに関しても抄録会の時間を利用して発表いただくことを考えています。特に優れているものに関しては病理学会の地方会で発表してもらうことも可能です。

毎日の生検・迅速診断に関しても日々経験していただくことが可能です。

基本的にはそれらの内容に加え、研修医の先生とほぼ同様の業務を検討していたただくことも可能です。

学生へのメッセージ

1．病理は3年生の時以来、久しぶりという方が多いと思います。苦手を克服したい、興味を持ったのでさらに勉強したい、どちらの希望にも添えると思います（前者が2週間コース，後者で希望があれば4週間コースをご検討ください）。病理診断は「この組織像ならこの診断」という一対一対応のイメージがあるかもしれませんし、試験対策ならそれで十分ですが、実際の病理診断は決してそう単純ではありません。臨床的、組織学的な背景を踏まえて、診療に役立つ病理診断を提供できるよう、我々病理医は日々診断しています。実際の病理医の仕事、カンファレンスの様子から、日々変化を続ける病理診断を学んでもらえればと思います。臓器は多岐にわたりますが、集中的に1つの臓器を学ぶこともできます。希望があれば事前に教えて下さい。できる限り対応いたします。なおレポート症例の選択はできる限り本人の志望科の意向に沿いますので、実習の最初に申し出てください。